令和2年度　学校だより

# はがきた

第8号　令和2年10月29日

**教育目標**

集中して学び、生命と人権を守り、生きる力の基礎を身に付けた子どもを育成する。

『学ぶ子　守る子　がんばる子』

## 秋の夜長は、何をしますか？

県北の山々からは、木々の葉が色づき始めたというたよりが聞こえるなど、気がつけば１１月を間近に控えた晩秋の季節となりました。保護者の皆様にはますます御健勝のことと思います。朝夕の気温がだいぶ低くなり、服装が１，２枚厚着となったのではないでしょうか。健康維持のため、衣服においてもしっかりと調節したいものです。

さて、２９日（木）の日の入りは１６：４７、３０日の日の出は６：０２で、計算上、夜の長さは１３時間１５分。まさに秋の夜長となってきました。この長い夜の時間、お子様とともに保護者の皆さんは何をしたいと思っていますか？現代っ子は読書時間が少ないと言われています。と同時に、新聞を読まないとも言われています。ネット時代の昨今、新聞を取っていない家庭が増えていると聞いています。その中にあって、芳賀北小の子どもたちは、読書好きが多くよく本を読んでいます。折角ですので、お子様と一緒に何かのニュースを取り上げ、それについての意見を交わしてみてはどうでしょうか。家庭でのよい会話となるだけでなく、物事に対する視野が深まっていくように思います。ぜひ、楽しいひとときを演出してみてはどうでしょう。

１１月７日には「立冬（りっとう）」を迎え、暦の上で季節は冬になります。寒さが増してきますが、この夜長を楽しみ、温かい家庭の時間を作っていただきたいと思います。

## 各種ボランティアによる支援広がる!!

１０月１３日（火）から更生保護女性会による、消毒・清掃ボランティアが始まりました。これは、ＰＴＡ役員の皆様が中心となって行っていただいているボランティア活動を聞いた更生保護女性会の方々が、「私たちにもできる」と支援を申し出てくれたものです。今まで、感染拡大防止の観点から保護者の皆様限定で行ってきたわけですが、ありがたい申し出でもありましたので、午後４時からという児童のいない時間からの活動にして、お願いすることとしました。４人ずつ４つのグループに分け、毎週火曜日に行っていただきます。また、保護者の皆様のボランティアも続いています。本当にありがとうございます。今後も無理のない範囲でお手伝いただければと思います。

## 宇都宮大学生ボランティア始まる！

**宇都宮大学２年生による学生ボランティアが１０月６日（火）から始まりました。これは、教育学部の大学生が、学校現場で直に児童支援の経験をするシステムで、本校にとってもいろいろなことを手伝ってもらうことができ、お互いに多くのメリットがある活動であると思います。手伝ってくれる皆さんは、本校の卒業生３名です。児童は、年が近いということで、大喜びです。毎週火曜日の午前中に来校します。お互いにＷＩＮ，ＷＩＮの関係が続けられるようにしていきたいと思います。**

### 【１１月の主な行事】

| | |
|---|---|
| ２（月） | 校内読書週間（～11/6）<br>時間割Ｃ開始 |
| ４（水） | 校内読書祭り（放送） |
| ５（木） | 自然体験教室（４年）<br>校内ハロウィンイベント② |
| ９（月） | 教育相談（～11/20） |
| １１（水） | 家庭教育学級(親子ふれあい活動)<br>北小タイム（表彰、講話）<br>卒業アルバム撮影 |
| ２５（水） | 避難訓練（総合消防訓練）<br>委員会⑤ |

# ☆児童たちの活躍・学校生活の様子☆

**【修学旅行に行ってきました！】（６年）**

ほるる

絵付体験

アクアマリン

野口記念館

昼食

鶴ヶ城

## 子は親の鏡、親は子の鑑
## ～子育てに思う～

先日、私の息子が中学校で教育実習を行いました。私は彼に、ずっと、教師になることは反対だ、と言い続けてきました。しかし、私の意見は関係なかったようです。土日も関係なく部活動をやって遅く帰ってくる父、いろいろなことが起こると出かけていつも忙しそうにしている父、彼は私のことをどう見ていたのでしょうか？

**鏡**と**鑑**、どちらも読みは「かがみ」ですが、**『鏡』は、「顔、姿などを写してみる道具」**のこと、**『鑑』は「規範とするべきもの、手本、模範」**のことです。この格言の意味は、子どもは親から多大な影響を受けているということですが、子どもを見れば親の考え方がわかるといったことにも使われます。つまり、親は『鑑』となるのでしょう。決して、同じ職業を選ぶというような話ではありませんが、おそらく彼は、私の中に、自分もそうしたいという何かを見たのだと思います。親がこうしたいという自分に育つのではなく、親の中に見た何かが自分を育んでいくのではないでしょうか。そう考えるといろいろ恐ろしいことがあります。普段の息子の生活の中で、見ていられないようなだらしなさを見つけることがあります。残念ながらそれは私自身の姿なのでしょう。会話の間、身振り手振り、ものごとへの考え方なども。腰への手の当て方も同じだったことには驚きました。長い年月、親の姿を見て刷り込まれて育ってきたことですから、ちょっとやそっとの意見では変わらないもののようです。

相田みつをさんの本に**『育てたように子は育つ』**という詩があります。この詩の解説も、育てるというのは、親の考えを伝えその通りにさせることではなく、親の見方や考え方を見て子どもは育つ、ということを言っています。思うような子に育ってほしいと願うならば、まず自分がそうならなければならないということなのです。これは、教師という立場で子どもたちに対応するときにも大切な考え方だと思います。大人として、正しい見方考え方を伝えていかなければなりませんね、自分の行動で。

参考に**「子どもが育つ魔法の言葉」**(ﾄﾞﾛｼｰ･ﾛｰ･ﾙﾄ著)をぜひ読んでみてください。

**※芳賀北小ホームページでは、カラーで学校だよりを掲載しています。**
**ぜひ御覧ください。**